

## ※申請者名：(株)南東北サンシャインファーム、品目：コメ

### 1. 輸出における現状と課題

#### 【現状】

・日本国内の米需要の減少を見据え、海外における日本産米の販路開拓による新たな需要創出を図ることを目的に、平成28年より輸出用米を生産し、翌年から輸出を開始。

・輸出先は、香港、シンガポール、ハワイ。

いずれも家庭内食よりも中食・外食の比率が高いため、業務用をメインに販売。

令和2年からは自社での生産に加え、山形県全域からの中間商流（集荷）業務も開始。県内生産者とも一体となって、さらなる取組拡大を目指している。

#### 【課題】

##### <生産段階>

・海外からは比較的安価な業務用が求められているが、日本国内で海外向けに安価な業務用米を生産すると、日本国内の主食用米との価格差が大きくなることが課題。

##### <流通段階>

・輸出拡大に向け集荷量拡大を図る必要があるが、集荷業務のマンパワー確保ならびに新市場開拓用米を保管するための冷蔵倉庫の確保が難しい。

・酒田港を使用した場合、航路や輸送手段の選択肢が限られているため、物流費の高騰やリードタイムの長期化が発生しやすい

##### <販売段階>

・タイ産長粒種などの海外産米と競合する中で、現地の外食事業者及び消費者に対し、日本産米の特徴や魅力をどのように訴求していくかが課題となる。

### 2. 輸出事業計画の取組内容

#### <生産段階>

・本業である農業機械の販売会社として、田植機・トラクタ・コンバインの自動運転やKSAS（KUBOTA Smart AgriSystem）などのスマート農業、鉄コーティング直撒栽培などの省力栽培技術を生産者へ提案し、新市場開拓用米生産者の省力化や低コスト生産に貢献していく。

#### <流通段階>

・自社で推進している生産者への新市場開拓用米取組の周知や契約の取りまとめと、山形県内業者による米の集荷・保管・検査業務の更なる分業化を推進していき、数量増加及び通年保管に対応できる体制を構築する。

・新たな輸送ルートの開拓を進めることで、物流費の抑制やリードタイムの短縮を図る。

#### <販売段階>

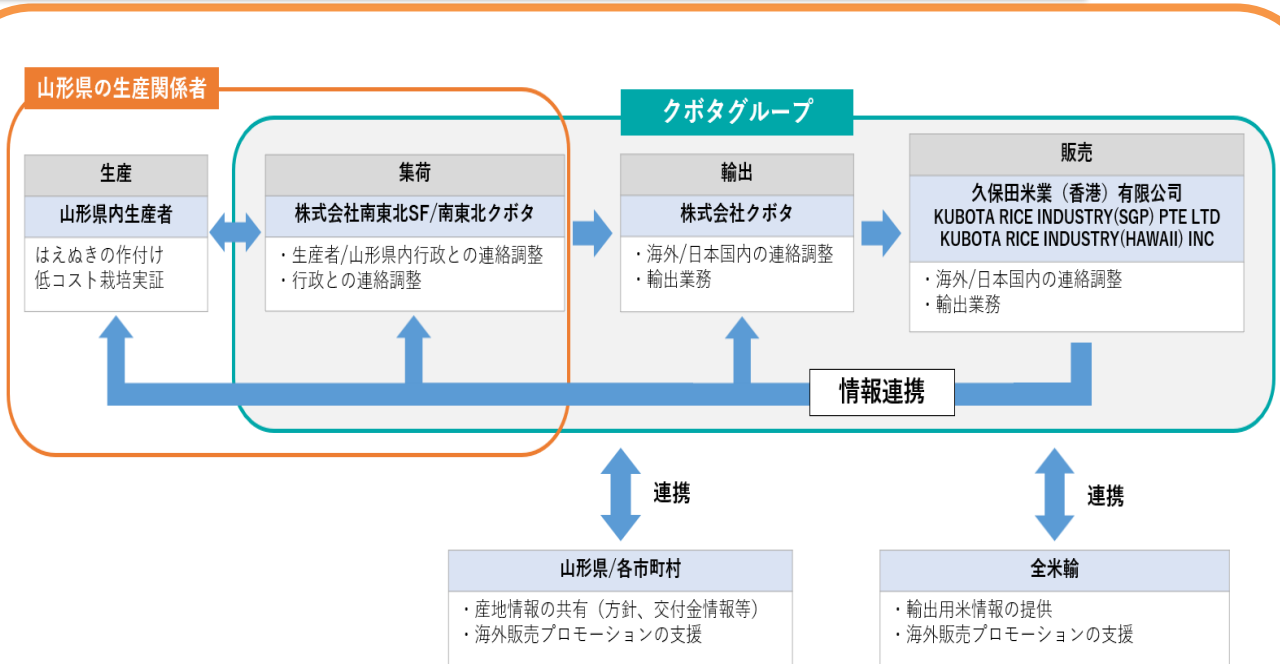
・全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会による海外産との比較調査結果等を活用しながら、食味スコアや成分分析データのグラフや表を提示し、日本産米の品質の高さを客観的に訴求する。

・行政や関係業者との協業や、上記に記載した生産面や流通面での取組を通してコスト低減を実現させることで価格競争力を高め、販売を強化していく。

# 輸出事業計画

※申請者名：(株)南東北サンシャインファーム、品目：コメ

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



### 役割分担

- ・生産:山形県内生産者
- ・集荷:株式会社南東北SF／南東北クボタ
- ・輸出:株式会社クボタ
- ・販売:久保田米業(香港)有限公司、KUBOTA RICE INDUSTRY(SGP)、KUBOTA RICE INDUSTRY(HAWAII)

## 4. 輸出目標額

		現状 (令和2年度)	目標年 (令和9年度)
山形県	輸出額(千円)	26,000	150,000
	輸血量 (kg)	161,610	1,000,000
	輸出先国	香港／シンガポール	香港／シンガポール ／アメリカ (ハワイ)